

広尾学園中学校高等学校

帰国生には最高の環境と条件（17）

国際担当 小山 和智

2007年4月に男子の受け入れを開始した広尾学園は、全学年が共学となった今年度、一層の人気校となりました。「入学満足度 100%」は既に在学している多くの帰国生からの便りにもあふれています。ますます目が離せません。

● 広尾学園中学校に延べ 5,554 名が受験

広尾学園の魅力は「自律と共生」の理念と、学力向上および目標達成力のための具体的な「戦略 (strategy)」にあるとよくいわれます。とりわけ学園を訪ねてくださるお父様の多くが「話が解り易い」といってくださいます。保護者にとっては「6年間の先行投資」をするに等しいわけですから、子供たちの未来が思い描けることは大事なのでしょう。

そのお蔭もあって、中学校一般入試（本科＝特進選抜・特進一貫）の出願者延べ数は、一昨年 619 名、昨年 2,985 名、今年 5,554 名と、2年連続で驚異的な伸び率となりました。実質の競争率は4～8倍程度（合格偏差値 55 程度）ではありますが、帰国生が一般入試で挑戦するには、かなり厳しい現実を迎えています。

他方、国際生入試では、日本人学校の出身者にも「英検 2級相当以上の英語力」を求めたこともあり、どこの学校にも合格できるような優秀な受験生が集まりました（本科とインターナショナルクラスを併せて 28 名）。「これでは帰国生受け入れ校ではない」と怒られそうですが、海外の在籍校で懸命に頑張り、それなりの成績を上げられたお子様は、適正に評価させていただいています。

● インターナショナルクラスの改善

本科の「先取り学習」については前回説明しましたが、日本語特別指導がないこともあって、現地校での学習期間の長い帰国生には、やや負担が重過ぎる傾向が顕著になっていま

す。また、帰国後数年を経過した生徒の英語力の伸長にも十分な指導が難しい状況も生じています。

そこで 2010 年度からは、インターナショナルクラスを「特進インターナショナルクラス」とし、その中に英語力に課題のある生徒も受け入れて、徹底的な英語の指導を行うグループを作ることになりました。もちろん、従来の形のインターナショナルクラスのカリキュラムで学ぶ「英語を第一言語とするグループ (AG)」は残し、英語で学びながら日本の文化や規律を学び、一条校の卒業資格を得られるようになっています。0 時限は漢字練習に当て、1～7 時限では「英文学」「数学」「理科」を英語で学ぶほか、「社会」「美術」「情報」は英語と日本語との併用、「国語」「体育」「音楽」「技術家庭」は本科との合同授業を含め、日本語での授業となります（2009 年 4 月現在）。これにより日本語での論文作成力も身につきますから、国内の大学にも進学が可能ですし、海外でも国内でも活躍できる人材を目指せます。

他方、新設する「英語を第二言語とするグループ (SG)」では、「英語」「社会」「美術」「情報」は英語と日本語との併用、「国語」「数学」「理科」など他の教科は、本科との合同授業となります。これに、0 時限の「英会話」、8 時限（自由参加）の「英語」で教員による徹底指導を行い、高い英語力の習得を目指します。基本的には国内の大学進学に備えるわけですが、高校 1 年ころまでに「AG 入り」し、海外の大学進学に備えた学習への道も開ければと考えています。

